

(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部通信 第25号 2010年10月

事務所：佐賀市水ヶ江4丁目2-2 TEL&FAX 0952-28-2077

e-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

URL <http://www.2.odn.jp/unicef-saga/>

§ § § 支部通信はホームページでもご覧いただけます



【世界の子どもたち】國井修医師からの報告 2010年9月1日ソマリア発

今年6月ソマリアに赴任し、現地で乳幼児死亡削減のためのユニセフの取り組みの陣頭指揮にあたっている國井修医師が、先日、ソマリア北東部の“プントランド”と呼ばれる地域を訪問。レポートが送られてきました。

\*\*\*\*\*

ソマリア北東部に位置する港町ボサソに到着するとすぐ、ソマリアの猛暑と強風、そして不毛な平原を前に、ソマリアでの昔の経験と思い出がよみがえってきました。

私は、1985年から1993年まで、あるNGOのメンバーとしてソマリアで活動していたことがあります。今回、私は、ユニセフの職員として、期待に胸を膨らませて再びソマリアに戻ってきたのです。

キャンプへの脅威

私がソマリアを離れた1993年当時、私はソマリアが新しい国として確立し、人々の日常生活が改善されていくことを期待していました。

しかし、治安状況は今も悪化し続けていて、胸が張り裂けるような思いです。子ども約100万人を含む約200万の人々が、今も人道支援が必要な状況に置かれています。

ボサソでは、ソマリアの南部・中部地域で続く武力紛争から避難してきた人々が暮らすキャンプを訪れました。このキャンプで、二人の子どもを持つある女性に話を聞きました。一家の大黒柱でもあるこの女性は、モガディシユの武力紛争を逃れ、このキャンプまでにとどり着くまでトラックで4日もかかったということです。幸い、ユニセフの支援により、治療的な食事や保健サービスを受けられたため、彼女の家族の状況は改善しています。



© UNICEF Somalia/2010/Kunii  
ソマリアのプントランド地方にあるボサソの避難民キャンプで。

もし何の支援もなかったら、様々な病気やそれに伴う合併症で、命を落としていたかもしれません。

ボサソのキャンプの中には、5歳未満の子どもの26パーセント以上が急性の栄養不良で、うち約5パーセントは、深刻な栄養不良に苦しんでいる場所もあります。こうした数値からも、ソマリアが、緊急支援が必要な非常に危険な状態であることは明らかです。

非常に重要な支援

食事の量が不足していることに加えて、キャンプの不衛生な環境や感染症の流行、母乳育児の習慣が根付いていないといった要因が子どもたちに栄養不良を引き起こし、状況を悪化させています。

ボサソのキャンプでは多くの栄養不良の子どもたちが、下痢や肺炎に苦しんでいます。多くの母親は、完全母乳育児を実践しておらず、そのため、子どもたちが安全でない食事や水を与えられているのです。

人的体制の面で制約があるにもかかわらず、ボサソ病院とキャンプ内の外来専門の食事治療プログラムのための施設（OTPs）に設置されたユニセフの「安定化センター」が、うまく機能していることが分かりました。ユニセフは、ソマリアの子どもの栄養不良問題への取り組みにおいて、大きな役割を果たしています。

しかしながら、避難民の間に見られる高い栄養不良率や、支援が届き難い地域で生活している最も困難な状況にある人々の状況を鑑みると、現在行われているこうした支援は、決して十分ではありません。更なる支援が求められています。



© UNICEF Somalia/2010/Kunii  
ソマリア北東部のボサソにある避難キャンプでの生活を余儀なくされている子ども。

MDGサミット閉幕  
最も困難な状況にある子どもたちを最優先に  
【2010年9月23日 ニューヨーク発】

9月22日夜、ユニセフ主催の国連ミレニアム開発目標（MDGs）サミット閉会式に参加した専門家や各国の代表者たちは、2015年までに国連ミレニアム開発目標（MDGs）を達成するために、世界で最も困難な状況に置かれている最も支援の届き難い地域の子どもたちに手を差し伸べることの重要性を強調しました。

ニューヨークのユニセフ本部で開催された「子どもたちと国連ミレニアム開発目標（MDGs）：最も弱い立場の人々に手を差し伸べること」と題されたこの会合では、未だに存在する開発途上国の子どもたちが置かれている不公平な状況を明らかにした最新の推計値に焦点を当てた議論が展開されました。

ユニセフが先日発表した最新版の『Progress for Children（子どもたちのための前進）』第9号（※日本語版は近日、日本ユニセフ協会ホームページで公開予定）は、貧困層の中でも最も貧しい子どもたちとその家族に支援の焦点をあてることは、当然のことであるだけでなく、国連ミレニアム開発目標（MDGs）達成のために最も費用対効果の高い方法であることを報告しています。また、ユニセフが最近発表したもうひとつの報告書『目標達成のための格差の是正（Narrowing the Gaps to Meet the Goals）』は、5歳未満児死亡率の60パーセント以上は、地理的に外界と最も隔離された地域に暮らす子どもたちに集中的に支援を行うことで予防できるものだ、と指摘しています。



© UNICEF/NYHQ2010-1960/Markisz

「最も困難な状況にある子どもたちへの支援を最優先に」パネル・ディスカッションで訴えるユニセフのアンソニー・レーク事務局長。



© UNICEF/NYHQ2010-1966/Markisz

「子どもたちは、私たちの未来の世代であることを、常に考慮するべきです。」  
バングラデシュのシェイク・ハシナ首相。



© UNICEF/NYHQ2010-1962/Markisz

「ユニセフは、公平で、最も弱い立場の人々を特定し、そうした人々を中心に支援を行っていると思います。」  
スロベニアのダニロ・チュルク大統領。

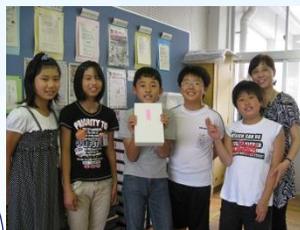
〔日本ユニセフ協会〕

## 佐賀県支部 活動日記



募金贈呈式  
7月1日（水）佐賀市立赤松小学校

赤松小学校では、ボランティア委員会6年生のみなさんが中心となって6月を「ユニセフ募金月間」に決めてユニセフ金活動に取り組みました。その結果、14,464円の募金が集まりました。「世界の子どもたちのために役立ててください。」と、箱いっぱい重い募金を佐賀県支部に託されました。



神崎市放課後子ども教室  
ドリームパーク出前授業（ほし組）  
7月7日（水） 神崎市立西郷小学校  
水から世界を考えよう

神崎市子どもの居場所づくり実行委員会では、国の委託を受けて神崎市内の7小学校や公民館で、放課後や週末にいろいろな体験活動・世代間交流ができる居場所づくりを進め、心豊かでたくましい子どもを育てることを目的としてドリームパーク事業を運営されています



ユニセフ出前授業  
7月8日（木） 佐賀県立ろう学校 中学部  
平和について考えよう

佐賀県立ろう学校中学部のみなさんは、ユニセフの資料を使って世界の様々な困難な状況下にある子どもたちのことを調べました。そのなかで、自分たちと同じぐらいの子どもたちが兵士になっていることを知り、平和について考えました。



イオン  
幸せの黄色いレシートキャンペーン  
7月11日 ジャスコ佐賀大和店



毎月11日の「イオン・デー」には「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」が実施されます。お客さまがレジ精算時に受け取った黄色いレシートを、地域のボランティア団体名が書かれた店内備え付けのBOXへ投函していただくと、レシートのお買い上げ金額合計の1%がそれぞれの団体に寄付されるというシステムです。佐賀県支部も投函BOXを用意していただいています。ユニセフへのご協力を呼びかけますと多くのお客様がレシートを入れてくださり、投函BOXは「幸せの黄色いレシート」でいっぱいになりました。ご協力ありがとうございました。

### 募金贈呈式

7月13日（火） 小城市立三日月小学校

三日月小学校では、毎年ユニセフ募金にご協力いただいています。募金活動に取り組んだボランティア委員会のみなさんより、10,000円の募金の贈呈が行われました。

募金贈呈の後、「ユニセフとユニセフの仕事」についての説明をして、児童のみなさんのご協力がどのようにいかされるかを、「マラリア予防用の蚊帳」を例にあげてお話ししました。三日月小学校のみなさん、ありがとうございました。



### ユニセフパネル展&グッズ頒布

7月28日（水）アバンセ

佐賀県生活協同組合連合会主催の『ピースアクション2010 ～子どもたちに、核兵器と戦争のない世界を願って～』が、190人の参加者のもとで開催されました。午前中は、どんどんの森ふれあい広場から平和行進がスタートしました。午後はアバンセホールで「平和のつどい2010」が開かれ、講演会と平和コンサートがありました。



### 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク ユニセフ出前授業（ゆめ組）

8月4日（水） 神崎市立西郷小学校にて  
水から世界を考えよう

西郷小学校ドリームパーク「ゆめグループ」の子どもたちは、クイズで衣・食・住、全てのものに水が関連していることに気付いたり、すごろくゲーム「いのちを守る水」で井戸が出来るまでのいろいろなことを知ったりしました。また、村に「井戸ができる前」と「井戸ができた後」の2枚の絵を見比べて、井戸ができたことによって村の生活がどのように変わったかを話し合いました。水運び体験では水の重さに驚く子どもたちもいました。

#### 【子どもの発言より】

◆ 村に井戸ができたなら人が増えて畑もできてみんなの顔が笑顔になってよかった。水を大切にしようと思った。手を洗うときに出しっぱなしにしないようにする。何時間も水を運ぶのは大変なことだと思った。水の話をして、水を大事に使うということを教えてくれてありがとうございました。



水は軽いと思って  
いたけど水運びを  
して重いというこ  
とが分かった。  
手が切れそうなぐ  
らい重かった。



## 佐賀市平和展 ～語り継ごう、平和の尊さ～

8月5日（木）～8月8日（日） 佐賀市立図書館

ユニセフパネル&地雷展「紛争下の子どもの人権」

佐賀市では平成4年度から毎年「佐賀市平和展」を開催し、今年で19回目を迎えます。今回の平和展は、「戦争の悲惨さを後世の人々に伝えていくこと」と「核兵器廃絶の願い」をテーマとして開催されました。

漫画“はだしのゲン”原画展、佐賀新聞に見る戦争の世相展、ヒロシマ・ナガサキ原爆の傷跡パネル展、いのちのまつり読み語りコンサート、映画「ヒロシマ・ナガサキ」「はだしのゲン」上映、谷口稜嘩さんによる被爆体験講話、日本ユニセフ協会佐賀県支部によるユニセフパネル&地雷展「紛争下の子どもの人権」などの催しに2800人の市民の皆様のご来場がありました。

### 参加者の声（アンケートより）

- ★地雷はふんで爆発する地雷だけか思っていたけどいろいろな地雷があって、なんでこんなものを作ったんだろう、作った人はよくないと思った。（小学生）
- ★子どもを兵士として使うなど、戦争には子どもを使ってはいけないと思いました。（中学生）
- ★いろいろな種類の地雷があり、草むらの中でひそかに人を傷つけるのを待っているということが分かりました。ユニセフが「地雷から自分を守る方法」を子どもたちに教えているなんて知りませんでした。とても大事なことだと思いました。（高校生）
- ★僕たちと同じような年齢の子どもが銃を持たされて兵士として使われていることに驚きと怒りを感じました。大人はどうしてこのようなことをさせるのだろう。兵士として使われた子どもたちは生き残っていても、体だけではなく心にも深い傷を負っていると思うので一生苦しむと思う。子どもを兵士として使うのは止めてほしい。（高校生）



### ユニセフグッズの頒布&募金活動

9月18日（土）第35回日本ハンドボールリーグ佐賀大会会場

（トヨタ紡織九州クレインアリーナ）

第35回日本ハンドボールリーグ佐賀大会会場においてユニセフパネル展・グッズ頒布、募金活動をしました。

試合後にトヨタ紡織九州株式会社ハンドボールチーム「レッドトルネード」の監督さん選手の皆さんが募金箱を持って募金活動にご協力くださいました。6,430円のグッズご協力、5,416円の募金協力をいただきました。皆さまありがとうございます。



さが国際ふれあいフェスタ2010  
～手をつなごう！世界と佐賀と～  
ユニセフパネル展&グッズの頒布  
9月19日（日） 佐賀市アバンセ

「さが国際ふれあいフェスタ2010」  
が19日、佐賀市天神のアバンセで開かれ、  
ユニセフパネル展「ユニセフの願い」、  
グッズ頒布を行いました。

また、来場者に「児童買春・児童ポルノ  
禁止法」の署名を呼びかけ311筆の署名  
をいただきました。

世界の貧困と飢餓を無くすための「立ち  
上がれ一歩！」のイベントに参加し、他  
団体との交流を深めました。



### ユニセフ出前授業

9月30日(木) 吉野ヶ里町立三田川小学校5年  
「世界の子どもたちのために…自分ができること」  
「ごちそうさまの向こう側」  
～ユニセフってなあに？～



三田川小学校5年の皆さんは総合的学習の時間に「世界の子どもたちのために…自分ができること…」というテーマで学習をしています。本日は、最も身近な「食」から自分の暮らしを見つめ、また、一方では食糧不足で必要な栄養がとれない子どもたちがたくさんいること、そして、それを改善するために働いているユニセフについて学習しました。

### 【学習を終えて】

- ・食べ物に分けるゲームをして、ぼくはとてもぜいたくをしているのだなあと思いました。
- ・給食を残さないようにしようと思います。
- ・食べ残したものをよく捨てているので必要な量だけ買って、いらぬものを買わないようにしようと思いました。
- ・世界には食べ物がなくて困っている人々がたくさんいるので、自分のものを分けてあげられたらいいと思いました。
- ・ぼくたちが食べ物を捨てるということは、世界の人々の食べ物をぼくたちが捨てているということだと思いました。
- ・ユニセフは子どもたちのために仕事をしているので、募金についてももっと知りたいと思います。

### 募金贈呈式

9月29日（水）

事務所にて

佐賀清和中学校では9月8日～9月10日に清和祭が行われ、ユニセフ実行委員会の皆様を中心となってユニセフチャリティーバザーと募金活動をしました。本日はユニセフ実行委員会の松尾さんと稲股さんが担当の西田先生と一緒に、保護者の皆様や生徒の皆様からご協力いただいたユニセフ募金39,919円を届けてくださいました。

また、「なくそう 子どもポルノ…『児童買春・児童ポルノ禁止法』の早期改正を求める要望書」の署名活動にも取り組み、161筆の署名ご協力をいただきました。

### 【活動を終えて】

◆今回の活動を通して思ったことは、最初はみんなこの活動に対する意識が低くて募金などはあまり集らなかったけど、強制的に働かされる子どもたちの姿をビデオで見たり説明をしたりしていくうちに、みんなも意識を持ち始めてくれるようになったのが嬉しかったです。そして募金などが徐々に集まっていったことが一番のやりがいとなりました。

◆中学1年生のときから3年間ユニセフ実行委員としてやってきました。色々大変なこともありましたが、世界の貧しい子どもたちのことを思って必死で頑張りました。僕たちのやってきたことで、たくさんの子どもの命が救えたと誇りに思っています。これからもユニセフ募金など様々な活動に積極的に参加したいです。





## ご支援・ご協力 ありがとうございます



国際ソロプチミスト佐賀西部様 赤松小学校様 三日月小学校様 (有)アライブ様  
母子草様 ピーターパンクラブ様 本願寺佐賀教堂佐賀教区教務所様  
ほんごう音楽教室様 ようどう館佐賀校様 ようどう館大和校様 佐賀清和中学校様  
トヨタ紡織九州株式会社レッドトルネード様 山小屋ラーメン川副店様  
小城市女性団体連絡協議会・小城市男女共同参画ネットワーク様

佐賀リハビリテーション病院様 カイセイ薬局荒江店様 サニーハウス様 山二商店様  
佐賀玉屋デパート様 千代田中部小学校様 さが市民活動プラザ様 仁比山小学校様  
うめづ歯科・小児歯科様 J-S A佐賀支部様 株式会社SUMCO佐賀事業所様  
雇用能力開発機構佐賀センター様 佐賀学園高等学校生徒会家庭クラブ様・水泳部様  
佐賀大学医学部様 かささぎの里様 木室小学校様 佐賀市国際交流協会様  
佐賀県地域ジョブ・カードセンター様 (2010年6月5日～2010年9月30日)

★いろいろな形でのご支援、ご協力で心から感謝申し上げます。この欄でのご紹介は学校・企業・団体等のみにさせていただきます。個人の方からもたくさんのご支援をいただいておりますが、平成17年4月1日からの「個人情報保護に関する法律」施行に伴い、個人の方のお名前の掲載は控えさせていただきます。

## ★ 募金のお礼とご報告 ★

### フィリピン台風、サモア地震津波、スマトラ沖地震緊急募金

「フィリピン台風」「サモア地震津波」そして「スマトラ沖地震」の緊急募金は2010年5月31日をもって受付を終了いたしました。皆様のご協力によって、これまで、フィリピン事務所に132万米ドル（1億1,884万円）、サモアを管轄する太平洋地域事務所に10万米ドル（911万円）、インドネシア事務所に50万ドル（4,449万円）を送金できました。

あらためて皆様のご協力で深く感謝申し上げます。



© UNICEF/PHI/2009

国連ヘリによって届けられるユニセフ調達物資



© UNICEF/PHI/2009

ユニセフより衛生キットを受け取る少女

[日本ユニセフ協会]

## ★佐賀新聞社ユニセフ支援宣言!!

お知らせ

佐賀新聞社は8月1日から「ユニセフ（国際連合児童基金）」の理念に賛同し、その活動を支援していきます。ユニセフは世界の子どもたちの命と健やかな成長を守るため活動している機関で、第二次世界大戦後の1946年に設立されました。現在は開発途上国の子どもたちを対象に、予防接種などの保健事業や教育の普及、エイズや暴力・虐待からの保護、自然災害や武力紛争地域への緊急支援などを柱に、世界150以上の国・地域で活動を展開しています。

佐賀新聞社は主に広報面などから支援。紙面やウェブなど本社のさまざまなメディア網を通してユニセフの活動をバックアップ、子どもたちを取り巻く世界の実情を紹介していきます。

【2010年（平成22年）8月1日佐賀新聞より】

## ★佐賀県ユニセフ協会への移行準備を進めています。

平成18年6月2日「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」他関連2法律が公布され（平成20年12月1日施行）、従来の「財団法人」は、認定手続きを経て「一般財団法人」と「公益財団法人」に変わります。財団法人日本ユニセフ協会は「公益財団法人日本ユニセフ協会」へと移行すべく、ただ今内閣府に認定申請中です。「公益財団法人日本ユニセフ協会」が認定され次第、「財団法人日本ユニセフ協会佐賀県支部」は、協定地域組織「佐賀県ユニセフ協会」となります。現在事務局では、移行に向けての準備をしているところです。

## ★「児童ポルノがない世界を目指して」・・・ただ今、署名活動中！

2010年7月9日

日本ユニセフ協会は、去る5月27日（木）、「児童ポルノがない世界を目指して」緊急アピールおよび国民運動の発足を記者発表し、政府の「児童ポルノ排除対策ワーキングチーム」の議長をされている大島敦内閣府副大臣をはじめ、中井洽国家公安委員長、千葉景子法務大臣に同緊急アピールを提出しました。その結果、ワーキングチームは今月初め、児童ポルノ問題の啓発やブロック導入の推進、被害児童の発見・保護の推進、取締りの強化など、同緊急アピールの項目1から4の内容を含む「児童ポルノ排除総合対策案（以下、総合対策案）」をまとめ、近日中に犯罪対策閣僚会議で報告、決定する見込みです。この総合対策案が着実に実行されれば、児童ポルノの根絶に向けて大きな一歩を踏み出すこととなります。

一方、緊急アピールの項目5「児童買春・児童ポルノ禁止法」（以下、現行法）改正の早期実現に関しては、残念ながらワーキングチームの総合対策案に盛り込まれておりません。ブロックでは遮断できないファイル共有ソフトを利用した大量の取引など、児童ポルノを取り巻く状況は、大きく変化しています。また、他の先進国では違法とされている児童ポルノの購入、入手、単純所持を禁止していない現行法の下では、国際的な捜査や取締りに日本は参加することができません。今回の総合対策案だけでは、「児童ポルノがない世界」の実現が難しいことは明らかです。そこで、日本ユニセフ協会は、「現行法改正の早期実現」を求める署名活動を実施し、国会に対して、児童ポルノの単純所持の禁止を含む法改正を直接訴えます。〔日本ユニセフ協会〕

◎ご賛同いただける方は同封の署名用紙にご署名の上、佐賀県支部までご郵送ください。誠に恐縮ですが、切手代のご協力もお願いできましたらありがたいです。なお、支部の締め切りは11月末とさせていただきます。

お問い合わせは、佐賀県支部事務所まで。（0952-28-2077 E-mail [unicef-aga@ams.odn.ne.jp](mailto:unicef-aga@ams.odn.ne.jp)）



© 日本ユニセフ協会

「法改正が進まない一方で、児童ポルノの犠牲者がどんどん増えています。子どもたちを守るために、今こそ大人が行動する時です！」東郷副会長とともに、法改正をふくめた緊急対策を訴えるアグネス大使

# これからの予定

## 1. 10月14日(木)～21日(木) 佐賀市立図書館にて

ユニセフ写真展「立ち上がる女性たち」  
～アグネス・チャンが見た“忘れられた国”ソマリア～  
★詳しくは同封のチラシをごらんください。

## 2. 10月15日(金)

「世界手洗いの日応援団」 手洗いデー  
愛の泉幼稚園(佐賀市) おひさま保育園(小城市)  
★他に佐賀県を通してのご参加も予定されています。

## 3. 10月17日(日) ユニセフのつどい ユニセフ講演会

講師：菊川 穰氏 (財)日本ユニセフ協会団体・組織事業部  
演題：「ユニセフの現場から ～レソト、エリトリア、そしてソマリア～」  
★詳しくは同封のチラシをごらんください。

## 4. 10月23日(土) ユニセフ出前授業 柳川市立大和公民館

## 5. 10月31日(日) ユニセフグッズ頒布&募金活動 第35回日本ハンドボールリーグ佐賀大会にて(神崎中央公園体育館)

## 6. 11月7日(土) ユニセフパネル展&グッズの頒布 本庄まつり かたりべの里会場(本庄小学校)

## 7. 11月11日(木)イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」 ジャスコ佐賀大和店

## 8. 11月17日(水) ユニセフ出前授業 矢ヶ部小学校

## 9. 11月20日(土)21日(日) ユニセフパネル展 第62回全国人権・同和教育研究大会(佐賀大会)にて

## 10. ユニセフ ハンド・イン・ハンド テーマ「届けたい。すべての子どもたちに”いのちを守る方法”を」 ★日時等詳しくは決まり次第お知らせいたします。

楽しい「つどい」です。  
たくさんの方のご来場をお待ちいた  
しております

ボランティア  
募集!

○写真展の会場ボランティア  
○出前授業の講師  
○ハンド・イン・ハンドの募金活動  
○イベントのお手伝い、等々  
★お気軽に事務所までお問い合わせください。

# ユニセフ紹介

ユニセフって何だろう??  
ユニセフの活動などについて少しずつ紹介します

## ユニセフってなあに?

ユニセフ [国際連合児童基金]  
とは、世界中の子どもたちのために活動する国際連合の中のひとつの機関です、

世界中の子どもたちの健康と幸せのために、世界150以上の国と地域で活動しています。たとえば、子どもの健康や命を守るしごと、栄養不良をなくすしごと、安全な水とトイレを使えるようにするしごと、子どもが学校に行けるようにするしごと、災害や戦争にあった子どもたちを助けるしごとなどを行っています。

ユニセフの活動はみなさんから  
おくれた募金などによって支えられています。



## ユニセフのマークの意味は?

平和のしるしであるオリーブの葉にかこまれた地球の上で、子どもが高くだきあげられています。このマークには世界中すべての子どもたちが、心もからだも健康にそだち、よりよい世界をつくる力になってほしいという願いがこめられています。

## なぜユニセフっていうの?

ユニセフがつくられたのは、第2次世界大戦が終わったあと、1946年のことです。そのころ世界では、戦争のために親や家をなくして、きびしい暮らしをしなければならない子どもたちがたくさんいました。その子どもたちを、戦争に勝った国も負けた国も関係なく(国際)、すぐに(緊急)、助けようとしたのがユニセフです。

国際連合

国際

児童

緊急

基金

United Nations International Children's Emergency Fund

というわけで、ユニセフのはじめの名前は「国際連合国際児童緊急基金」といいました。その頭文字をつなげてみると UNICEF(ユニセフ)になります。その後、ユニセフは緊急の仕事だけでなく、世界中すべての子どもたちの命と健康をまもり、子どもたちがもつてうまれた能力を十分にのばしていけるように、政府や地域の人々と協力して計画を立てて活動するようになりました。そこで、1953年に、名前をいまの「国際連合児童基金」(United Nations Children's Fund)と変えましたが、ユニセフというよび名はとても親しまれていたもので、そのまま使われています。